



専門担当者を配置し積極的に認知症ケアと地域交流を推進

社会福祉法人煌徳会 特別養護老人ホーム とどろき一倫荘 [千葉市稲毛区]

「とどろき一倫荘のこだわりとして、開設当初から認知症に特化した『特養』を目指し、日本認知症ケア学会が認定する認知症ケア専門士を配置しています。当施設では認知

症に「とどろき一倫荘のこだわりとして、開設当初から認知症に特化した『特養』を目指し、日本認知症ケア学会が認定する認知症ケア専門士を配置しています。当施設では認知

症に「とどろき一倫荘のこだわりとして、開設当初から認知症に特化した『特養』を目指し、日本認知症ケア学会が認定する認知症ケア専門士を配置しています。当施設では認知



社会福祉法人煌徳会
特別養護老人ホーム
とどろき一倫荘 地域福祉
コーディネーター(社会福祉士)

まつざき よしえ
松崎 由絵 さん



社会福祉法人煌徳会
特別養護老人ホーム
とどろき一倫荘
施設長

ひらの こういち
平野 幸一 さん

症の入居者に対して、薬を使わずに落ち着いて過ごせるようにするなど当専門士が支援計画を作り個別対応することや、話しかけ方など介護スタッフへの教育に力を入れていきます。取り組みの背景には従来の入居者は寝たきりの方が大半でしたが、最近は自分で立ち上がり歩くことができる認知症の入居者が増えていくことがあります(平野さん)。

設備においては、スマートフォン1台で入居者の睡眠などの状態把握をはじめ、介護記録、ナースコール対応が行えるシステム「EGAO Link(エガオリンク)」を導入し、「夜、よく眠れない」という認知症の入居者がどのような睡眠をとっているかを確認して医師の診断に役立てるほか、介護記録業務などの効率化を図っています。「離床するとスタッフに通知が届くので、人員が少ない夜間を担当するスタッフからも『安心感が増す』と好評です(平野さん)。

また、自分で立ち上がれる入居者の転倒転落リスクを軽減するために、超低床ベッドを20台用意しています。

国の介護スタッフ配置基準は3対1ですが、とどろき一倫荘には1・7対1と基準のほぼ倍の介護ス



個室。全室のベッドに睡眠状態を把握できるセンサーを設置している。



関係者だけでなく、学生や親子連れなど誰でも利用できる「認知症カフェ」。



定員30名と20名の2室ある「地域交流スペース」。間仕切りを外せば50名対応の1室としても利用できる。

独自の専門職種により 地域交流の活性化を図る

とどろき一倫荘は、別法人の障がい福祉サービス施設、保育園と隣接していて、その間に通した遊歩道を

タッフがいます。「そのため有給休暇が取りやすく、離職率の抑制につながっています。スタッフのための保育所を用意するなど、働きやすい職場環境作りも大切にしていきます」(平野さん)。

一部の介護スタッフは、建物の設計の段階から、各室の配置計画や設備・備品の選定にも関わり、働きやすい施設作りに参加しました。これもスタッフのモチベーションアップにつながっています。

介して行き来しやすくなっています。

保育園との間では、訪ねてきた園児が入居者に歌を聴かせたり、ハロウィンにお菓子をもらったりといった交流があります。子どもから元気を分けてもらったり、子どもに歌や手遊びを教えたりと、双方が交流のメリットを享受しています。

また、入居者のQOL(生活の質)向上や施設の認知度を上げるために、地域交流に積極的に取り組んでいます。施設関係者以外の方も利用できる「認知症カフェ」、会合などに利用できる「予約制」地域交流スペース(定員30名、同20名が各1室)の設置に加えて、地域交流の推進を担当する地域福祉コーディネーターという独自の職種を作り、介護スタッフの松崎由絵さん

を同職に据えました。

「地域交流を活性化させるため、自治体や周辺の学校などの相手先を訪ねてその意義を説明し、理解を得ながら実現可能な交流方法を検討しています」(松崎さん)。

実際に、近隣の大学から賛同を得て、入居者の居住フロアに上がって、食器洗いやお茶出しをしながら会話するといったボランティア活動に学生が参加しています。

高校の折り紙クラブの生徒が「地域交流スペース」で入居者に折り紙を指導する教室も開かれました。その他、習字や将棋、体操などスタッフが得意とするテーマでクラブ活動を企画し、地域住民の参加を募り入居者との交流の機会を増やしています。「地域交流の会を開い

た結果、反対に参加者の学校に入居者が招かれて外出する機会が増えるなど、様々な世代と交流することを利用者のQOLが高まりました。また、外部の方々との接触が増えたスタッフの接遇態度が自然に向上してきました」(松崎さん)。

身近に感じてもらう 気軽に相談できる場にした

「地域交流スペース」は、入居者以外にも幼稚園児父兄の茶話会や企業の会議など、地域のみなさんが多様な目的で利用しています。「認知症カフェ」も携帯電話の充電用コンセントやWi-Fi環境を提供するなど利便性を高めた効果もあり、日に日に来客が増えています。

「幅広く地域の方々を迎え入れることによって、施設や私たち職員を身近に感じてもらいたいと願っています。在宅介護でいろいろな悩みを抱える方も増えていくでしょう。認知症カフェは誰でも気軽に介護の相談ができる場所であることを積極的に発信していきます」(平野さん)。

近隣の方々が集うとどろき一倫荘は、地域と一体となつて高齢者を支援する施設として機能し始めています。

DATA

● 社会福祉法人煌徳会 特別養護老人ホーム とどろき一倫荘
〒263-0021 千葉県稲毛区轟町5-2-1 電話:043-307-8301
<http://www.ichirin.or.jp/todoroki.html>